

2021 年度 大会開催指針

東北大学バスケットボール連盟

大会開催の趣旨

東北地区の大学バスケットボールの普及・発展のため、東北大学バスケットボール連盟として大会を開催し、学生スポーツの継続と普及・発展に寄与すべく、大会を開催する。

その際、新型コロナウイルス感染拡大防止策を最大限講じるため、選手、スタッフ、学生委員および理事全員が一丸となって取り組むものとする。

I. 大会開催ガイドライン

1. 大会開催について

以下の点を考慮して、大会の開催を検討する。

- (1) 政府・自治体、スポーツ庁・公益財団法人日本バスケットボール協会（以下、JBA）・全日本大学連盟（以下、JUBF）などの方針に沿って検討する
- (2) 参加大学が所属する県すべてにおいて「緊急事態宣言」等が出されておらず、移動の制限等が行政から課されていない
- (3) 参加大学が所属する県のいずれかにおいて「まん延防止等重点措置」等が発出されている場合は、その内容を吟味して検討する
- (4) 東北大学バスケットボール連盟が策定した本指針を遵守する
- (5) 新型コロナウイルス感染拡大予防対策を徹底する
- (6) 入館するチーム関係者（ゲームエントリー選手・スタッフ、および大会エントリー選手・スタッフ、及びスカウティングスタッフ）の入館人数を制限する
- (7) 無観客試合を原則とする

2. 大会参加についての条件

- (1) 政府・自治体、スポーツ庁・JBA・JUBF などの方針に沿うこと
- (2) 東北大学バスケットボール連盟が策定したガイドラインに基づくこと
- (3) 所属部員および指導者、チーム関係者に試合前2週間以内に新型コロナウイルスの陽性者、および検査（PCR 検査など）中の濃厚接触者がいないこと
- (4) 所属大学が大会参加を認めていること

濃厚接触者の定義

「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」（「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。）の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- ・ 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・ 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他：手で触れることのできる距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

濃厚接触者への対応

保健所から濃厚接触者と通達された場合には、14日間の自宅待機・健康観察を要する。なお患者（確定例）の発症は「症状出現」をもって判断するが、無症状病原体保有者の発症は「検査施行時」となる。また感染可能期間は前述の通りであるため、一般的には「発症48時間前」までに前述の基準に該当する者は濃厚接触者に該当する。なお保健所から指示される前に、行動記録、感染対策実施状況に関して情報収集し濃厚接触者リストを作成しておくことが望ましい。

なお、症状消失72時間以降に合流が許可される。

チームへの対応

陽性者が発症48時間前までにチームでの活動があった場合、チームでの活動は48時間中止する。

3. 大会期間中の大会中止の条件

- (1) 執行役員会（仮称。会長、副会長、理事長、副理事長で構成）によって、大会中止・延期等の検討・判断を行う。
- (2) 大会期間中に大会関係者、所属部員および指導者、チーム関係者、審判に新型コロナウイルスの陽性患者が発生するなどの場合
- (3) 「緊急事態宣言」や「移動制限」などが東北6県のいずれかにおいて発令された場合
- (4) 政府・自治体、スポーツ庁・JBA・JUBFなどからの指示があった場合
- (5) その他、開催県・地域において「緊急事態宣言」や「移動制限」、「まん延防止等重点措置」などが発出され、大会運営が困難であると判断された場合

4. 大会中止等の検討方法

- (1) 大会開催中の場合、執行役員会（仮称。会長、副会長、理事長、副理事長で構成）および会場責任者（会場校理事など）によって大会中止の検討をおこなう
- (2) 大会開催前の場合、会長、副会長、理事長、副理事長で原案を作成し、理事会にて決定する
- (3) 政府・自治体、スポーツ庁・JBA・JUBFなどの方針に沿って検討する
- (4) 東北大学バスケットボール連盟が策定した本指針に基づく

Ⅱ. 大会方式

1. 実施方針

- (1) 本ガイドライン策定時は、各大会（春季大会、リーグ、新人大会）において、2019 年度大会における開催方法方式を想定している。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、各大会の開催方法方式は、柔軟に対応する。

2. 具体的実施方式

- (1) 各大会の開催方法については、その時の東北6 県の各種状況を勘案し、決定する。

Ⅲ. 新型コロナウイルス感染拡大予防対策

- ① 無観客試合とする
- ② 入館するチーム関係者（ゲームエントリー選手・スタッフ、および大会エントリー選手・スタッフ、スカウティングスタッフ）の入館人数を制限する
- ③ 施設（体育館・更衣室）の換気状況の確認（空間除菌より換気が特に大切）
- ④ 定期的に接触場所の消毒を徹底（T0 セット、得点版、試合球、ベンチなどの消毒するための除菌シートなどの準備）
- ⑤ 密室になる更衣室の利用はできるだけ避け、更衣のできる広い場所の確保
 - ・ 必要に応じて、観客席や廊下等における区切られたエリアでの更衣を認める
- ⑥ 来場する者（大会関係者含む）は全員健康チェックシートを提出
 - JBA 作成健康チェックシート（大会関係者・審判・参加チーム用）
- ⑦ 体調不良や発熱のある者は、会場に入らない
- ⑧ 会場入館時における選手の検温
- ⑨ 選手が密にならないように、試合の間隔を空ける（例えば、120 分間隔で試合開始）
- ⑩ 試合終了後、T0 および会場担当者以外は速やかに退館する
- ⑪ コート上の選手、審判以外のマスク着用
- ⑫ 手洗い、うがい、消毒の徹底を指導
- ⑬ ベンチは2 列にするなど、会場施設の許す範囲で密になるのを防ぐ
- ⑭ 会場での食事は会場のルールに則る
- ⑮ 水分補給のボトルは、共用せず、選手個々に用意する
- ⑯ 会場で発生したゴミは各自持ち帰る
- ⑰ その他

大会参加：学生用

1. 大会参加の条件

- (1) 本人に活動の意思があること
- (2) 活動参加に関する保護者の承諾（未成年者のみ）
- (3) 直近の2週間で健康状態に異常がなく、体調、体温測定に変調がない

大会前2週間において以下の項目にあてはまる方は参加しない。

- ◇平熱を超える発熱
- ◇咳、のどの痛みなどの風邪症状
- ◇だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- ◇嗅覚、味覚の異常
- ◇身体が重く感じる、疲れやすいなどの症状
- ◇同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
- ◇過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

※これらの症状等に該当する選手等が出たことによって、チームの編成が不可能となり棄権せざるを得ない場合には、処罰対象とはしないので、予防第一で対応を決定すること（本来であれば、エントリー後の棄権は処罰等の審議対象となる）。また、コーチ有資格者が同様の理由により不在となった場合には大会実施委員会担当者に速やかに連絡を取り、指示を仰ぐこと。

- (4) 当日、発熱、喉の痛み、咳、全身の怠さなど、風邪と考えられる症状がある場合は参加不可
- (5) 風邪薬や解熱剤を服用しての参加は厳禁
- (6) 会場利用が済めば、速やかに帰宅する（利用前後の滞在時間を短くする）こと
- (7) クラブ指導者（部長・監督・コーチ・トレーナー）の指導や管理事項を遵守すること
- (8) 東北大学バスケットボール連盟が策定した本指針を遵守すること

2. 大会参加時の遵守事項

- ① 来場する際の移動は、可能な限り感染リスクの小さい方法を利用する。
- ② 3密を避けるため定められた時間前に入館しない。
- ③ 来場時はマスクを着用すること。
- ④ チームは入館者名簿を提出する。
- ⑤ 入館する者（チームスタッフを含む）は全員健康チェックシートを提出する
→JBA 作成健康チェックシート（参加チーム用）
- ⑥ 体調不良や発熱のある者は、会場に来ない。会場に入らない。
- ⑦ 入館時に、手指の消毒、および検温の徹底。
- ⑧ こまめに手洗い、うがい、消毒を実施する
- ⑨ 館内では3密回避、マスク着用を徹底する。（コート以外のW-up時も同様）

- ⑩ 施設（体育館・更衣室）の換気に協力する（空間除菌より換気が特に大切）
- ⑪ 定期的に接触場所の消毒を徹底（T0 セット、得点版、試合球、ベンチなどの消毒するための除菌シートなどの準備）
- ⑫ 更衣室を利用する際は大会本部の指示（人数、時間など）に従う（会場によっては、観客席や廊下等の区切られたエリアでの更衣を認める場合がある）
- ⑬ 会場内では、不要な身体接触（握手やタッチ、ハグなど）は行わない。
- ⑭ コート上の選手、審判以外はマスクを着用する
- ⑮ ベンチに戻るたびにアルコール消毒をおこなう
- ⑯ ベンチに戻ったばかりの選手は、ベンチから離れたエリアで呼吸を整えてから（このときはマスクを外して良い）、ベンチに戻る（ベンチではマスク着用）
- ⑰ 水分補給のボトルは、共用せず、選手個々に用意する。
- ⑱ 会場での食事は原則禁止とする。
- ⑲ 試合終了後、T0 および会場担当者以外は速やかに退館する。
- ⑳ 会場で発生したゴミは各自持ち帰る

大会参加：審判員用

1. 大会参加の条件

- (1) 本人に活動の意思があること
- (2) JBA が定める審判員用の指針を遵守すること
- (3) 直近の2週間で健康状態に異常がなく、体調、体温測定に変調がない
- (4) 発熱、喉の痛み、咳、全身の怠さなど、風邪と考えられる症状がある場合は参加不可
- (5) 風邪薬や解熱剤を服用しての参加は厳重に禁止
- (6) 会場利用が済めば、速やかに帰宅する（利用前後の滞在時間を短くする）こと
- (7) 東北大学バスケットボール連盟が策定した本指針を遵守すること

2. 大会参加についてのガイドライン

- ① 来場はマスクの着用
- ② 手洗い、うがい、消毒、洗顔を徹底する（ハーフタイムに実施）
- ③ 常に会場の換気を行う
- ④ 指定の場所にて更衣をおこなう
- ⑤ クォーター毎に手指のアルコール消毒をおこなう
- ⑥ クォーター毎に試合球の消毒をおこなう
- ⑦ 定期的に接触場所を消毒する
- ⑧ 握手やタッチの禁止
- ⑨ 会場での食事は会場のルールに則る
- ⑩ 会場で発生したゴミは各自持ち帰る
- ⑪ 来場時間を分散させる
- ⑫ 活動場所、活動時間、活動者の記録保持
- ⑬ 健康チェックシートを提出
- ⑭ 会場借用先のガイドラインの遵守すること

施設利用

1. 活動対象者の条件

- ① 東北大学バスケットボール連盟が策定したガイドラインを遵守すること
- ② 本人に活動の意思があること
- ③ 活動参加に関する保護者の承諾（未成年者）
- ④ 来場する者（大会関係者含む）は全員健康チェックシートを提出 →JBA 作成健康チェックシートを利用（大会関係者・審判・参加チーム用）
- ⑤ 直近の 2 週間で健康状態に異常がなく、体調、体温測定に変調がない
- ⑥ 試合当日、発熱、喉の痛み、咳、全身の怠さなど、風邪と考えられる症状がある場合は、たとえ軽症であって 参加不可
- ⑦ 風邪薬や解熱剤を服用しての参加は厳重に禁止
- ⑧ 施設利用が済めば、速やかに帰宅する（利用前後の滞在時間を短くする）こと
- ⑨ クラブ指導者（部長・監督・コーチ・トレーナー）の指導や管理事項を遵守すること
- ⑩ 選手は「大会参加：学生用」、審判員は「大会参加：審判員用」を遵守する

2. 施設借用にあたって

- ① 施設借用先のガイドラインの遵守
- ② 基本的な衛生やエチケットをおこなう
- ③ 3密を避ける（密閉・密集・密接）
- ④ 入館するチーム関係者（ゲームエントリー選手・スタッフ、および大会エントリー選手・スタッフ、及びスカウティングスタッフ）の入館人数を制限する
- ⑤ 無観客試合とする
- ⑥ 来場時刻、退館時刻を分散させ、活動時間の短縮に努める。
- ⑦ 施設（体育館・更衣室）の換気の徹底（空間除菌より換気が特に大切）
- ⑧ 定期的に接触場所の消毒を徹底（T0 セット、得点版、試合球、ベンチなどの消毒するための除菌シートなどの準備）
- ⑨ 密室になる更衣室の利用はできるだけ避け、更衣のできる広い場所の確保
必要に応じて、観客席や廊下等における区切られたエリアでの更衣を認める
- ⑩ 来場する者（大会関係者含む）は全員健康チェックシートを提出
→JBA 作成健康チェックシート（大会関係者・審判・参加チーム用）
- ⑪ 体調不良や発熱のある者は、会場に入れない。（会場における選手の検温）
- ⑫ 選手が密にならないように、試合の間隔を空ける（例えば、120 分間隔で試合開始）
- ⑬ 活動時間の短縮に努める。
- ⑭ 試合終了後、T0 および会場担当者以外は速やかに退館する。
- ⑮ 会場での食事は会場のルールに則る
- ⑯ 水分補給のボトルは、共用せず、選手個々に用意する。

- ⑰ 会場で発生したゴミは各自持ち帰る
- ⑱ 活動場所、活動時間、活動者の記録保持し施設借用先に報告する
- ⑲ 何かあれば、東北大学バスケットボール連盟が対応する